

感染症と人権②

令和2年度八女市人権メッセージ(標語) 一般の部 特選作品

知ることが味方になれる 第一歩

あゆみ
平島 歩 さん

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の流行で、今まで感じた事のない感情が自分の中にある事に気付きました。知らず知らずのうちに感染のうわさ話に便乗してしまっていた自分に気付き、反省しました。まさか自分の中の恐怖心が、人への攻撃につながると思っていました。

感染された人にも自分と同じ様に家族や友達があるかもしれない、その人たちは心を痛めていたことでしょう。これが自分の家族や友達、知り合いだったらきつと心配し、気持ちに寄り添うことができていたかもしれません。相手の背景を知る事が相手を身近に感じる事につながる。それで、相手を思いやる事ができると思いました。

こんな時だからこそ、自分を含め見知らぬ相手でも思いやれるような雰囲気になる事を願い、今回の標語を考えました。

感染症による人権侵害をなくすために

不安や恐れに惑わされない

ウイルスや感染症に関する正しい情報の入手に努めましょう。

うわさ話などを信じない、広めない

うわさ話やインターネット上の書き込みには誤った情報が含まれていることがあります。冷静に行動しましょう。



知ろうとする気持ちを大切に

感染症に関わる問題を自分や身近な人の事として考え、自らの行動を振り返ることで、うわさ話に同調することのおかしさに気付いた平島さん。「知らない事が憶測を招き、思い込みや決めつけにつながります。人に対してもっと関心を持つことが大切で、相手のことを知らなくても、知ろうとする気持ち、相手の気持ちに思いをはせるこ

とが大切ではないでしょうか」と話しました。その言葉からは、偏見や差別をなくしたいという強い思いが感じられました。

人権問題は、全ての人が当事者として解決すべき問題です。コロナ禍で自由な生活を強いられながらも、思い合う気持ちで人権侵害の発生を防ぎ、誰もが安心して暮らせる社会をつくっていきましょう。